

令和8年度 福岡市食育推進会議 事前質問票への回答

ご質問・ご意見	所管	回答
1	保健医療局 地域保健課	○市民の食に関する状況については、18歳以上の市民を対象とした「市民の食育に関するアンケート調査」を中心に、把握しています。(福岡市ホームページ 令和6年度食育推進会議に掲載) ○①朝食欠食率(年代別)は、別紙のア-1の通りですが、野菜摂取量の調査結果は県単位の結果しかございません。(厚生労働省ホームページ 国民健康・栄養調査に掲載) ②栄養バランスのとれた食事に関する状況は、別紙のイ-1の通りです。 ③経済的困難な市民の食生活の実態については、把握しておりませんが、「朝食を食べない理由」や「主食・主菜・副菜をそろえて食べることができない理由」として、「食費の余裕がないから」を選択する方が一定程度おられることから(別紙のア-2・イ-2)、健全な食生活を送れない理由の一つとして経済的な課題があることを認識しております。
2	教育委員会 給食運営課	○子どもたちが朝食を食べない理由について、令和7年度に児童生徒に対して行ったアンケート調査では、「食べる時間がない」「食欲がない」「食べる習慣がない」という回答が上位を占めています。 ○背景には、子どもたちの就寝時間が遅くなり起床時刻が遅いために朝食を食べる時間がとれなかったり、翌朝お腹がすいていない状態になったりしているなどが考えられます。また、食育白書によると、親世代の朝食を食べない習慣が、朝食を食べない家庭環境に影響している可能性も指摘されています。 ○このため、学校においては、子どもたちへの食の指導の中で朝食の大切さについて教えるとともに、保護者に対して、家庭へ配布する「食育だより」での啓発や、給食試食会、入学説明会などの機会を通じて働きかけを行っており、引き続き、指導・啓発を行ってまいります。

令和8年度 福岡市食育推進会議 事前質問票への回答

	ご質問・ご意見	所管	回答
3	【全体】推進計画では、家庭、地域、学校、職場などとの連携を掲げ、食育を家庭や地域の課題のように扱っています。そこで、低所得世帯、ひとり親家庭、単身世帯等の食育の状況をどのように把握しているのか、資料の提出を求めます。また、食育の推進のためには、貧富の格差や長時間労働、食品価格高騰など、構造的な社会問題の改善が必要ではないかと思うが、所見を求めます。	保健医療局 地域保健課 こども未来局 こども見守り 支援課	○「市民の食育に関するアンケート調査」の中で、所得等に関する調査項目は含まれておりませんが、回答者の属性として家族構成（単身、夫婦のみ、親子2世代、親子3世代、その他）を回答してもらい、家族構成別の集計を実施しています。（福岡市ホームページ 令和6年度食育推進会議に掲載） ○「福岡市子どもの生活状況等に関する調査」では、朝食摂取状況を世帯収入別、世帯類型別（ひとり親等、ふたり親）に集計し把握しています。（福岡市ホームページに掲載） ○社会情勢の変化等により、健全な食生活を実践することが難しい状況が生じていることを踏まえ、取組みを推進していく必要があると考えています。
4	【P4の19】①学校における栄養教諭の配置状況の推移、②栄養教諭とスクールソーシャルワーカーとの連携体制について、資料を求めます。	教育委員会 給食運営課	①学校における栄養教諭の配置状況の推移 令和4年度：115人 令和5年度：113人 令和6年度：114人 令和7年度：114人 令和8年度：114人 ②栄養教諭とSSWとの連携体制について 栄養教諭とスクールソーシャルワーカーとの連携体制については、管理職を含めた関係者で情報を共有し、経済的な理由により朝食を欠食している子どもへの食事支援として、フードバンクから譲り受けた食材を家庭に配布したり、朝食として学校で提供しています。
5	【全体】市役所全体で見て、食育の専門職は、どういう配置となっているか、資料を求めます。	保健医療局 地域保健課	○食育推進に関わる職員は、 保健医療局地域保健課： 管理栄養士3名、調理業務の経験のある職員3名 各区役所健康課：管理栄養士1名 こども未来局指導監査課：管理栄養士4名 教育委員会給食運営課： 主任指導主事1名、栄養教諭2名、管理栄養士3名 その他、公立保育所、公立小学校の調理担当者や、公立小・中学校に栄養教諭が配置され、食育に携わっています。

令和8年度 福岡市食育推進会議 事前質問票への回答

ご質問・ご意見	所管	回答
6 【P12の③】学校給食への市内産農産物利用割合が目標値に届かない状況について、その原因と具体的打開の手立てをどう見ているのか、所見を求めます。また、地産地消は、家庭での普及はどうか進んでいるのかがわかる資料の提出を求めます。	農林水産局 政策企画課	○小学校給食における市内産農産物（野菜）の利用割合につきましては、初期値の令和2年度24.5%から、3年度は30.2%、4年度は30.6%、5年度は31.8%と順調に上昇していましたが、6年度は天候の影響により、学校給食で使用量の多いキャベツやニンジンが不作となったことなどにより、目標値には達していない状況となっております。 ○福岡市の学校給食は1日あたり約12万食と非常に多く、大量かつ安定的に供給可能な食材の調達が求められることを踏まえると、市内産農産物の利用割合を高めるためには生産状況を踏まえた献立の作成などが必要となることから、引き続き、JA、学校給食公社、教育委員会と協力し、その実現に向けて取り組んでまいります。 ○地産地消の普及につきましては、福岡市内産食材やその加工品である「ふくおかさん家のうまかもん」を軸に、発信力のあるホテルや飲食店の料理人等を産地に招く「産地見学ツアー」や、ツアー参加飲食店で市内産食材使用メニューを期間限定で提供する「飲食店フェア」を実施し、テレビや情報誌、SNSなどのメディアを活用したPRを行っているほか、親子などで産地見学と料理を行う「食と農の体験教室」などを実施しております。 【令和7年度実績】 ・産地見学ツアーの開催 計44の飲食店等が24の産地を訪問 ・飲食店フェアの開催 2回開催（1回目：令和8年1月・6店舗、 2回目：令和8年3月・9店舗） ・テレビ放映 15回（うち生産者出演8回） ・情報誌掲載 掲載期間：令和7年6月～令和8年2月、 計7冊、総頁数88頁 ・SNS発信 圃場見学の様子、飲食店フェア、その他の事業を通じた市内産農水産物のPRなど ・食と農の体験教室 4回・77人参加

市民の食育に関するアンケート調査より

ア-1 ●朝食を欠食する割合（年代別）

	平成27年度	令和2年度	令和6年度
20代	29.2%	32.3%	31.5%
30代	26.6%	23.4%	21.4%
40代	23.0%	20.7%	20.9%
50代	11.6%	18.8%	17.6%
60代	13.8%	11.9%	11.9%
70代以上	4.7%	6.2%	5.7%

ア-2 ●朝食を食べない理由

	令和6年度
食欲がないから	46.3%
時間がないから	29.9%
朝食を食べるより寝ていたいから	23.9%
手間が煩わしいから	16.4%
食費の余裕がないから	6.0%
その他	21.6%

イ-1 ●主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上ほぼ毎日食べている割合（年代別）

	平成27年度	令和2年度	令和6年度
20代	22.6%	25.0%	31.5%
30代	27.8%	30.1%	36.6%
40代	35.3%	34.8%	42.3%
50代	40.4%	38.6%	44.3%
60代	52.5%	46.2%	59.4%
70代以上	64.2%	60.9%	68.8%

イ-2 ●主食・主菜・副菜をそろえて食べることができない理由

	令和6年度
手間が煩わしいから	58.8%
時間がないから	35.7%
量が多くなるから	23.5%
食費の余裕がないから	22.2%
外食が多いから	12.9%
そろえる必要性を感じないから	9.8%
その他	9.8%